

「会員企業の経営課題等に関する実態調査業務」に関する プロポーザルにかかる評価基準

1 基本的な評価事項

表1の評価項目及び業務内容に応じた重みづけを考慮し、評価を行います。各評価項目の評価の視点は「2 評価方法」の表2のとおりとします。採点が同点の場合は、評価事項のうち倍率が高い項目の合計点数で再評価を行い、受託候補者を特定します。

表1 基本的評価事項

評価項目 (配点)	評価の着目点	評点 (評価)	倍率	配点
提案内容	実施方針が明確で、仕様書との整合性が取れているか	5～1 (A～E)	× 3	15
	取組意欲が感じられ、独創性・実現可能性のある提案となっているか	5～1 (A～E)	× 4	20
	過去の業務実績や知識・ノウハウが活かされた提案となっているか	5～1 (A～E)	× 4	20
	提案内容の実現にあたり、適切な人員確保ができているか	5～1 (A～E)	× 3	15
	・仕様書の内容が適切に見積書に反映されているか ・提案内容と見積書の整合性が取れているか	5～1 (A～E)	× 2	10
加点項目	当所会員企業であるか	10	× 1	10

90点満点

2 評価方法

- (1) 提案内容は、A、B、C、D、Eの5段階評価を行う。
- (2) 「提案内容」の評価については、次のように点数化を行い、項目ごとの倍率を乗じ評価点を算出する。

評価	A	B	C	D	E
評点	5点	4点	3点	2点	1点

- (3) 「提案内容」においてE評価のある者は原則として選定しない。

表2 評価の視点

評価項目	評価の着目点	評価				
		A	B	C	D	E
提案内容	実施方針が明確で、仕様書との整合性が取れているか	十分な理解に基づいた期待以上の提案である	理解に基づいた的確な提案である	どちらともいえない	理解がやや乏しく一部に課題のある提案である	理解が乏しく課題のある提案である
	取組意欲が感じられるような、独創性・実現可能性のある具体的な提案となっているか	具体的で独創性・実現可能性のある期待以上の提案である	具体的で独創性・実現可能性のある提案である	どちらともいえない	やや独創性・実現可能性に乏しく一部に課題のある提案である	独創性・実現可能性に乏しく課題のある提案である
	調査項目の検討方法、集計・分析手法について、過去の業務実績や知識・ノウハウが活かされた提案となっているか	十分に知見やノウハウが活かされた期待以上の提案である	知見やノウハウが活かされた提案である	どちらともいえない	やや知見やノウハウが乏しく一部に課題のある提案である	知見やノウハウが乏しく課題のある提案である
	経験や知識が豊富な現場責任者並びに作業人員を十分に確保できているか	質・量ともに期待以上に確保できている	質・量ともに確保できている	どちらともいえない	質・量のどちらかが不足している	質・量ともに確保できていない
	見積書に仕様書の内容が過不足なく盛り込まれ、提案内容との整合性が取れているか	十分に仕様書・提案内容との整合性のある見積書である	仕様書・提案内容との整合性のある見積書である	どちらともいえない	仕様書・提案内容とやや整合性のない見積書である	仕様書・提案内容との整合性のない見積書である
加点項目	当所会員企業であるか					